

公民館事業 (地域政策課)	栃木市民大学実践講座多文化共生コース (生涯学習課)	隣保館子どもの居場所作り (人権男女共同参画課)
高校生蔵部 (生涯学習課)	議員と高校生の意見交換会 (議事課)	こども食堂 (こども家庭センター)
①地域活動への参加促進	②次世代の担い手/未来のまちづくり	③地域社会/子どもを取り巻く環境
【良い点】 小学校から高校生まで幅広く参加できている。 高校生が十年にわたって自主的に活動できている。 三世代交流が上手く図られている。 多彩な事業を展開できている。 世代の上下関係が希薄化する中、学校間学年間を越えて交流できている。	【良い点】 政治に関心をもついい機会。 投票に行く気持ちを高める。 議員さんも将来の有権者の気持ちがわかり新しい視点が持てる。 中学生と多文化交流ができている。	【良い点】 子供の居場所ができ、うまく運営されている。
【課題】 運営していくのに必要な人数は？（メンバーの確保） 活動内容を取り上げてもらうには？ 子供達の社会参加と先生の働き方改革（負担軽減） 継続的なメンバー、高齢化による後継者の確保	【課題】 市民大学の講座に市民ニーズを反映させるため、アンケートをとった方がよい。 外国人が増えるので、学生の窓口を広げた方がよい。 将来の有権者を育てる。	【課題】 貧困を表に出しすぎると子ども達が来にくくなる。 傾聴する場も必要では？ 貧困の見極め（相対的貧困） 本来の施設の目的と子どもの居場所作り
【社会情勢との関係】 高校再編で数が減っていく中での人数確保 公民館と中学校が連携していたが、再編により統合されることで窓口を失ってしまう。	【社会情勢との関係】 先生の負担軽減（働き方改革） 外国人の数が増加する（中学生に限らず高校、短大、大学生もボランティア募集してはどうか。）	【社会情勢との関係】 支援が必要な子ども達は依然存在する。子ども食堂がどのような性格の施設とするか整理が必要。
【今後の方向性】 <u>全体の共通点</u> 高齢者は様々な施策があり状況に応じ選択できるが子ども達はそうではない。成長の段階に応じた選択できる支援がもっとあってもよいのではないか。	【今後の方向性】 学生と議員をつなげる団体（先生の負担軽減） ができれば、社会参加がでやすくなるのでは。	【今後の方向性】 隣保館だけではなく、地域の中で公民館開放などができるか。 子どもに限らず幅広い世代が誰でも来れるようになる とよい。（単身高齢者も増えてくる。）

公民館事業 (地域政策課) 高校生蔵部 (生涯学習課)	栃木市民大学実践講座多文化共生コース (生涯学習課) 議員と高校生の意見交換会 (議事課)	隣保館子どもの居場所作り (人権男女共同参画課) こども食堂 (こども家庭センター)
①地域活動への参加促進	②次世代の担い手/未来のまちづくり	③地域社会/子どもを取り巻く環境
【良い点】 青年同士の交流の場 10年間の活動には価値がある。	【良い点】 中学生ボランティアの活躍 主権者教育に貢献	【良い点】 夏休み期間中の居場所に貢献している。 実施団体の存在
【課題】 学校の協力 純粋なボランティアでよいのか。	【課題】 「言語の壁」と「習慣の違い」 参加者間で意識の差がある。	【課題】 常駐の職員がいないのでボランティアが必要 参加人数が多いところは予算不足
【社会情勢との関係】 担い手不足 大人との考え方の違い	【社会情勢との関係】 共生社会の社会浸透 若者の投票率の低さ（親の影響有り）	【社会情勢との関係】 夏に安全に過ごせる場所の確保（暑さ対策） 子供の貧困化
【今後の方向性】 子ども大学をつくってはどうか（埼玉県に例があり） 高校生蔵部の部員の増加は素晴らしい。	【今後の方向性】 継続が大切 議員と高校生の共同作業（料理作りなど）	【今後の方向性】 ボランティアの確保（たとえ1時間交代でも見守りを） 月に1回では少ない。夏休みに回数を増やす。